

V70a 鹿児島大学光・赤外線望遠鏡計画について

面高俊宏、廣田朋也、西尾正則、河南勝、森崎悟、前田利久、長谷川渉(鹿児島大理)、田中培生(東大理)、唐牛宏、笹尾哲夫、小林秀行(国立天文台)、清水実(ぐんま天文台)、奥平敦也(国際大)

国立天文台のVERA計画で観測する変光星に付随する質量放出現象を解明するため、口径1mの光学赤外線望遠鏡を開発し、VERAの鹿児島入来局に置いて光と赤外線のモニター測光観測を行う計画を進めている。この光と赤外線のモニターデータはVERAの観測スケジューリング立案にとっても貴重なデータとなることが期待される。本講演では、計画の概要と望遠鏡の基本的な仕様について報告する。

- ・サイト：鹿児島大学入来牧場 VERA 望遠鏡から 100 m 離れた隣接地、標高 500 m、薩摩半島の山頂。
- ・光学系：口径 1 m、リッチクレチアン型、主鏡 $f / 2.5$ 、カセグレン合成 $f / 12$ 。

カセグレン焦点	1 箇所
ペントカセグレン焦点	2 箇所
ナスミス焦点	1 箇所
- ・架台：経緯台
- ・観測室：ドームに連結して機器制御室とデータ処理室を建設する。
- ・その他：望遠鏡の口径 1 m は九州一であるので地元の期待が高く、一般にも公開できるよう整備予定

現在、設計は終了し、鏡や架台部の部品加工に着手。1月末に基礎工事、3月にドームを完成し、秋には試験観測を予定している。尚、この望遠鏡を用いて変光星を観測するので、データの連続性を図るため木曾観測所、ぐんま天文台との共同観測を予定している。